

-----

14番 廣田幸照議員

-----

議長（中西 康雄君）

それでは、一般質問を再開いたします。

通告順2番 廣田幸照君の発言を許可します。

-----

14番（廣田 幸照君）

議席番号14番の廣田であります。

今日は、学校教育について質問をいたします。まず第1番目には、大台町の高等学校教育について質問をいたします。

ご存じのように大台町には宮川高校と昴学園高校の2校がございます。そのうちの1つ宮川高校は、三重県教育委員会の方針として、平成22年3月に生徒募集を停止して相可高校との統合を計画をしています。これは事実上の閉校でありまして、新高名がどうなるにせよ、相可高校のままでいくか、あるいは多気高校となるか、いろいろあると思いますが、昭和23年の創設以来60年余りの歴史を閉じることになるわけです。

一方、昴学園高校は、宮川高校の分校として長らく存在しましたが、分離独立して荻原高校となり、さらに特色ある高等学校として全寮制全員推薦入学の昴学園高等学校となりました。ここで1点質問をいたします。大台町としてこの宮川高校がなくなることについて、どのような不都合が生じてくるだろうと考えられますか、お答えをいただきたいと思います。

2点目です。国道42号線沿い、多気町から尾鷲まで今、大台町、大紀町、そして紀北町の3町がございます。人口は4万4,000人余でございます。この地域で高等学校がなくなる事態が生じています。教育の機会が失われることになると思いますが、いかがでございましょうか。

さらに、1つ残りました昴学園高校につきまして、この学校の特色はどういうところにあるか、その特色をどのように認識しているのか、お答えをいただきたいと思います。

-----  
議長（中西 康雄君）

教育長。

-----

教育長（谷口 忠夫君）

1点目の宮川高校がなくなることについて、どのような不都合があるのかとのご質問でございますけども、三重県教育委員会では進行する少子化など社会の変化に対応するため、平成13年に「県立学校再編活性化基本計画」を策定し、県立高等学校の適正規模を原則として、1学年学級数を8学級以下、3学級以上とし、1学年2学級以下の規模を設置のコンセプトの1つとして開校をした学校を除き、統廃合も視野に入れた活性化の具体的方策を地域社会とともに検討していくこととなり、平成20年の「県立高等学校再編活性化第3次実施計画」において、各地域で高校の再編が実施されている中、宮川高校と相可高についても平成22年度を目途とする統合に向けた検討が進められております。

現在、宮川高校は1学年2学級、80名の定員募集でございます。平成20年度の生徒数は、1年生70名、2年生68名、3年生66名の全校生徒数204名で定員割れの状況にあり、地元の中学生の多くが松阪市内等の高校に進学しておりまして、宮川高校を希望する大台町の生徒は、募集定員の2割に満たない現状でございます。したがって、高校の適正規模等を考えますと、やむを得ない状況ではないかと考えております。

2点目の多気町から尾鷲まで高等学校がなくなることになる。教育機会が失われないかとのご質問ですが、平成14年3月の県内中学校卒業生数は2万1,117人でしたが、平成23年3月には約1万7,900人となり約3,217人の大幅な減少が見込まれ依然として、少子化が進行しております。こうした状況の中、県立高校は教育の質的向上を図り生徒に魅力ある教育環境を整備するため、生徒・保護者及び地域のニーズを的確に捉え、平成19年度から普通科は隣接する通学区域の県立高校に入学志願できることとし、生徒の選択幅の拡大が図られていますことから、教育の機会が失われることにはつながらないと考えております。

3点目の昴学園高校の特色はなにかとのご質問ですが、この学校は、三重県の学校改革のさきがけとして、「生き生きと個性を伸ばす」を教育方針とし、「21世紀を担う新しいタイプの学校」として、

平成7年度に2学級の総合学科の学校として設立されました。

全国で唯一の全寮制であり、総合学科として5系列（国際交流、環境技術、美術工芸、介護福祉、総合スポーツ）を設置し、集団生活をしながら主体的に自己の進路について考えることのできる人材育成を目指して特色のある教育を実践しております。また、二学期制、単位制、90分授業、習熟度別授業などを取り入れ、特色を持った教育内容を実践している学校でございますので、ご理解をお願いし答弁とさせていただきます。

-----

議長（中西 康雄君）

廣田議員。

-----

14番（廣田 幸照君）

どのような不都合があるかと考えるのかということについては、お答えをいただきませんでした。宮川高校ですね、現在1年生から3年生まで200名余の生徒が学んでいるわけですが、そのうちのですね31人、15.2%が通学経費が不要と答えておるんですね。通学経費が要らんです。つまり旧大台町なり、宮川地区の一部、あるいは大宮町ですね、旧大宮町のあたりから自転車通学で来る人、あるいは徒歩で来る生徒は通学経費が要らんです。この31人の不要と答えた生徒がですね、宮川高校がなくなることによって、相可、あるいは松阪市内の高等学校に通学しなければいけない。あるいは昴学園のほうに通学するということになるかもわかりません。

確かに大台町出身はですね、現在33人で16.2%、大紀町の生徒は48人で23.5%、この2つを地元と考えますと40%の生徒が地元出身であります。ただ大紀町出身の錦なんかは学年ごとに5名ぐらいの生徒がいますから、かなり多くなってきます。地元と言えるどうかは、ちょっと通学距離からいうとクェッションマークを付けてもいいところであります。

そこでですね、通学生徒は三瀬谷駅からJRを利用していくわけになりますが、相可までですと7,070円、それから松阪までですと7,680円、1ヶ月通学定期の代金がかかるんですね。ですから、これは確実に親の負担増になっていくわけです。さらに通学できない生徒は下宿せざるを得なくなる。あるいは親戚宅に寄留をしてですね、通学するということになります。こういうことになると、ますます

親の負担は大きくなっていくわけですね。

そこでこの通学経費を含めた親の負担ですね、軽くなる施策はないかと、こういうふうに質問いたします。企画課に問い合わせましたところ、宮川地区は町営バスを使って三瀬谷駅まで来る生徒は15~16人いるようですね。今、このJRを使って宮川中学の卒業生が何人ほど通っているか調べましたら、48人町外の高等学校に行っているということになります。さらに下宿、または寄留をしているのが4名プラスになります。

この生徒ですね、JRを利用する生徒について申し上げますと、町営バスは1回300円で乗れます。ところが高校生は学生証の提示、またはそのような申請によって1回について100円でよろしいということになって、200円軽減される。往復600円要るところが200円で済むということで軽減されておるんですけども、15~16人しか利用できてない。なぜかと言うですね、クラブ活動をしておれば、最初の始発のJRに乗っていく、終着のJRに乗って帰ってくる。このバスがないんですね。だから親が送り迎えをする、そういう事実があるんです。こういうこともこのバスの運行をですね、さらにJRの時間帯に合わせてやるというようなことも考えれば、軽減策になると思うんですね。

ちなみに、大紀町は錦地区の高校生はただなんですね。錦地区からJRの柏崎まで来るのに通学経費というか、バスの利用料金はただなんですね。そういうふうな政策をとってます。機会均等を失うことになるのではないかという質問をしまして、それに対して機会均等を失うことにならないとおっしゃいましたけども、ここで確実にですね、経済的な負担がかかっていくわけですね。この辺が機会均等を奪うということの何ものでもないわけですね。

2番目にですね、昴学園のことについて質問をいたしました。荻原分校、あるいは荻原高校の時代を考えてみますとですね、あの学校はすでにもう廃校の遡上に乗ってもいいわけですね。長島高校はもう廃校になりました。それから南島高校、それから度会高校、南勢高校の3つは南伊勢高校として統合されて校舎制をとっています。それと同じようなテンポでこの荻原分校なり、荻原高校なりは進んでいっていただろうと推測されるんですね。

しかし幸いなことに、先人の努力によってああいうふうな昴学園高校という特色あるご答弁のとおり学校にリニューアルしまして、そこに生徒が1学年2クラス、80名あるいは82名の生徒が合わせて240名以上の生徒が学んでいるところでありまして。ところがですね、位置的な状況から国道あるいはJRを利用した公共交通機関がないわけでありまして。心理的にも中学生の志望する高等学校に非常になりにくい。この特色ある高等学校を大いにですねPRして、大台町や大紀町出身生徒が増加する方法を考えたい。伺いたい。これは2つ目の質問になります。

3番目に、荻原高校がですね、昴学園に生まれ変わった当時の状況はですね、私どもも承知してお

ります。そのときの行政の姿勢を伺い、もう昴学園を発足してから15年ぐらい経ちましたですね、社会情勢はどんどん流れております。昴学園は大丈夫だろうと腕をこまねいて見ていると、この間8月2日の知事トークで質問したところ、知事の答弁は完全な公式見解、生徒が減ったならば再編計画の遡上に乗せなければいけないと、こういう答弁でございました。その時点になってですね、ちょっと待ってくれ、これなくなったら困るんだというふうなことでは遅過ぎるわけですね。だから、今後の対応の参考とするために、昴学園高校が誕生したときの行政の姿勢をお伺いします。

-----

議長（中西 康雄君）

町長。

-----

町長（尾上 武義君）

この通学するおりにですね、親の負担が増加をしてくると、こういうことでもございました。当然そのようなことになろうかと思えます。また1問目でも不都合なことはというようなことでもございます。今、松阪近郊からも通われてくる学生さんも見えます。そういうことで三瀬谷駅で乗り降りがあり、あるいはコンビニの利用とかですね、いろんなこの地域にも経済効果もそれなりにあるというふうになっているところがございます。

そういったようなところが、活力の減退につながっていかへんかなという、そんな懸念も持っているところでもございますが、当然、この宮川高校がなくなりますと、その分どこかの高校へ行かなくちゃならないと、こういうようなことでもございまして、廣田議員おっしゃられますように、その分通学、あるいは下宿等々で費用負担がかさんでくるのじゃないか、そういったようなことについての軽減施策というようなことでもございますが、なかなかその子どもたちだけとらえてというわけにはいきませんし、調べてみましたらこの町ではですね、今年の3月には町内中学校の96名の生徒が卒業し、全員高校に進学をしていると、こういうことでもございます。

そのうち町内の高等学校に進学した生徒が27名という数字でございます。現在はこの大台町の生徒で町外の高校に通学、あるいは下宿をしているという生徒が214名ほどいると、こういうことでもございます。高校教育では通学費をはじめ下宿費など多額の費用が必要であるということでもございますが、

こうした多くの生徒の負担の軽減となりますと、現在の町の財政状況におきますと、この214名をカバーするとなりますと、大変厳しい状況でございます。軽減策というようなことで、今後対応していくことは少し困難であるというほかございませんので、その点ご理解をお願いいたしたいと思います。どうぞよろしく願いをいたします。

-----

議長（中西 康雄君）

廣田議員。

-----

14番（廣田 幸照君）

宮川高校がなくなることは、どんな不都合があるかというような、不都合という言葉を使いましたのは私です、教育長はそれに対して答えなかったと思うんですが。

-----

議長（中西 康雄君）

教育長。

-----

教育長（谷口 忠夫君）

2点目の地元大台町、あるいは大紀町出身の生徒がまず増加する方策をとることのご質問でございますけども、昴学園高等学校は設立当初から全寮制の高等学校でありまして、入学者全員が入寮生活を送ることが原則となっております。しかしながら、地元生徒の優遇措置といたしまして、設立当時から地元旧宮川村地内の生徒には、本人の希望によりまして通学を認めるという特例措置が置かれているというふうに聞いております。

その後、町村合併によりまして新大台町となりましたが、町内の生徒についても特例措置が適用さ

れまして、現在生徒は自転車や町営バスで通学しているとのことでございます。

一方、昴学園高等学校では、今後の学校経営を考える昴ビジョン協議会が持たれ、2年間の協議の結論といたしまして、今後も全県内の生徒が集う全寮制の高等学校として、より一層の魅力化を図る学校経営を推進するとのことでございます。地域や保護者、そして生徒の学習ニーズに応える魅力ある教育内容が実施されるとのことでございますので、地元大台町及び大紀町と近隣地域の生徒も集ってくるということというふうに思っておりますので、どうぞよろしくご理解をいただきたいと思っております。

-----

議長（中西 康雄君）

町長。

-----

町長（尾上 武義君）

その3点目のですね、昴学園高校に生まれ変わった当時の行政姿勢ということでございますが、平成の初めごろからですね、この高等教育への進学率の高まり、あるいは価値観の多様化等々ですね、多様な生徒が進学するようになりまして、従来の画一的な教育では対応仕切れなくなってきていると、そういう中で高等教育改革が強く叫ばれるようになってきたと、こう聞いております。

そのような中で、荻原高校におきましても独立高校とはいえ、へき地小規模校の持つ諸問題は決して明るいものではない現実がございます。生徒の減少によりまして、このままでは近い将来廃校にもなりかねないという、危機感も迫っております、当時の学校の校長はじめ、学校関係者は荻原高校を存続発展させるためには、大胆な学校改革しかないと判断し、県教育委員会に意見を上げるとともに、当時の宮川村の山本村長に相談をいたしました。

ということで、村長からは若い人に住んでもらい、地域の活性化につなげたい意向もあり、そのためには宮川村としても全面的に協力するという熱い支援の言葉もあり、学校関係者はこの荻原高等学校改革基本構想を立ち上げて、教育委員会に具申をされたところでございます。

おりしも平成2年の当時に、県の教育委員会に新しいタイプの高等学校検討委員会が設置をされております。三重県では全国に誇れるようなユニークな高等学校をつくろうという気運が盛り上がっております、その重点プロジェクトとして荻原高校を改革して、新しいタイプの高校をつくるという

構想が取り上げられて、平成7年4月に昴学園高校が誕生いたしました。

ということで、以上が昴学園高校の誕生に至る当時の取り組みでございます。そういう中で、当時の奥村校長さんや、あるいは三重県教育委員会の宮本教育長、いろんなそのスタッフが揃う中で、県教委へ挙げてこの荻原高校を改革しようという、その熱意がですね引き継がれて、当時初代の校長が県の教育委員会教育長をされておりました田川さんでございましたんですが、それに引き継がれて今にも至っております、こういうようなことでもございます。

この間の知事トークのときのお話にもございましたように、子どもが減っていけば、それは遡上に乗るわなというような、確かにそういうお話もございました。その遡上に乗ったときには遅いというようなことでもございますんでね、この80人の生徒を確保するためにどうしたらいいかということで、もう早くからその話は聞いております。

地域と学校が一体となりながらですね、やはり地域性のしっかりしたつながりのある、そういう高校というものを目指さなあかんのやないかなと思っているところでもございます。先だっても友の会というのが毎年会合を開くんですが、その際にもいろんな方が見えます。その中でもやはりもう80人をしっかり確保するという方策について、いろいろ諸課題があろうと思うけども、そのことの解決に向けて取り組んでいかなあかん、将来に向けて安定した学校経営ができるような形で、ともに考えていこうというような挨拶もさせていただいたようなことなんです、そういうようなことですね、遅れのないような形でとっていかなあかん。こういうふうなことでもございますが、さきほど申し上げましたように、公共交通機関の充実なんかもありましようし、また近隣の中学校への募集の要請なり、そういったようなこともですね、どんどんかけていかなあかん。

それ以上にあそこへ行ったらいいことがあるんだというようにですね、やはり特色のある高校としても努力を重ねていかなならない部分があるんじゃないかなと、こう思っているところでもございます。

そういうようなこと含めて、高校あるいは地域の中でですね、取り組んでいかなばならない課題であると認識をいたしておりますので、どうぞよろしくお願いをしたいと思います。

-----

議長（中西 康雄君）

廣田議員。



-----

14 番（廣田 幸照君）

さきほどは失礼いたしました。町長が出てきてもらって答弁されたので、もうこれで終わりかなと思ひまして、三次質問に移ろうとしたところでございます。

さて、そのようなところで昴学園は今、教育を行なっておるわけでございますけども、さきほど町長の答弁にもありましたように、そのときの校長、教頭がですね、新しい施策は何か文科省の、その当時はまだ文部省ですけども、文部省の施策は何か。そしてそのピックアップした特色ある新しいタイプの高等学校の構想を持ちかけた。たまたま北川県政とうまくいって、また行政の山本泰輔村長の熱い思いも加わってですね、ああいう形の高等学校になったように聞いております。

地域の住民の中にはですね、昴学園もやがて募集定員を満たせなくなって、この状態が一定期間続けば再編計画の遡上に上がってしまうんじゃないかと、こういうのを強く心配をしているわけです。先人が心血を注いで創生して育ててきて、大きな変革を経てこの地区の教育に寄与してきました。今、さらに範囲が広がって、旧の大台町地域、あるいは大紀町までエリアを広げていって、第二のふるさと思えるような情操教育の中で、青年期の教育を施されるというのは素晴らしいことであります。

さらにですね、その新しい文科省の施策を先取りするような形でですね、変革を進めていかんと、これはやはりじり貧状態に陥っていくということでもあります。さきほどの町長の答弁で、かなり言い尽くされておりますので、あと昴学園高校の変革と事例を参考にして、さらなる発展を図るための行政の施策を伺いたいというのはもう伺いませんで、さらにですね、これからの実際の対応の中で、行政の姿勢の中で昴学園高校の後押しをお願いいたしたいとこう思います。

それでは2番目の質問に移ります。よろしいでしょうか。

次に、協和中学の統合問題について聞きたいと思ひます。平成18年、2006年の第2回6月の定例議会で、大台町の当面の教育問題についてという題目で、統合問題について私が質問いたしました。それ以後ですね、15名の方、15回にわたって一般質問でされました。そして町当局は21年3月、協和中学を大台中学に統合する方針を明らかにしました。

また、組合立を構成する一方の大紀町は、21年3月をもって組合立を解消し、野原、黒坂地区の生徒は大宮中学に通学させる方針ということを明らかにして、今回の議会にもこれに関する条例改正が出ているわけでございます。

さて、一番最初の質問でございますけども、21年4月とした統合時期、組合立を解消した時点で統合するのはいいわなという話でありましたが、現実的に無理として先送りを表明されております。町

長の任期も残り1年半、22年4月に統合なさるのか、それとも23年4月なのか、時期を明らかにしていただければ有り難いと思います。

2点目でございます。大紀町は21年4月に大宮中学にさきほど申しました野原、黒坂地区の生徒を通学させるとしました。今在学中の3年生が、協和中学の3年生が卒業するとして、あと3名の生徒がそれぞれ進学して3年生、1年生に在籍することになるわけですが、大紀町は大宮中学へ通うか、あるいは住所を大台町に移して協和中学に通うか、どちらかに選択してくれというふうなことを言っているようでございます。さらに大紀町は、錦中学、柏崎中学、大内山中学校を統合した新中学を現在の柏崎小学校に設置します。大内山小学校、柏崎小学校を統合して、新小学校を現大内山中学校に設置するとしています。

比較しまして、大台町の対応には非常にブレが目立つように感じます。この2つの町の差は何に起因するのか、町長あるいは教育長のリーダーシップなのか、表面性のなせるところか、この辺の見解をお伺いいたします。

3番目に、協和中学の耐震強度は0.24でございました。いつ倒壊してもおかしくない状態です。そして事実耐震補強工事に入りまして床下を剥がしたところですね、基礎が外れて柱が浮いている状態が確認されました。町長のほうからそういうような報告をいただいています。6,000万円をかけて耐震補強工事を済ませたことについては評価する声がございまして、生徒の安全・安心を第一にしたということで評価する声がございまして、一方、財政状況が逼迫している当町にとってですね、統合により使われなくなる校舎に耐震工事をするのは、財政が厳しい中、痛みを我慢している町民にとっては理解ができません、こういうふうな声もございまして、厳しい声ではですね、「あんなに死に金に等しいやないか」という声も聞こえてまいります。確かに安全・安心を担保したところは評価しますが、一貫した教育行政の展開とは考えられないと思いますが、いかがでしょうか。

4点目でございます。統合に対して日進地区の同意が得られないまま日時が経過している現状であります。先般の町政懇談会でも「生徒の交流が図られてない。このまま統合してはいじめや登校拒否等のさまざまな問題が発生する懸念がある。慎重に進めるべきである」とこういう発言もございました。グリーンプラザ大台での発言です。教育委員会としては、交流を進めれば統合を前提にしていると避難されますし、同意を得るまで児童・生徒間の交流をストップしておれば進展はございません。ジレンマに陥っているというところでございまして、打開する方策をお示しいただきたい。この4点を質問いたします。

.....

議長（中西 康雄君）

尾上町長。

町長（尾上 武義君）

それでは、協和中学校の統合問題についてお答えをいたします。

1点目の平成21年4月とした統合時期について、現実的に無理として先送りをしたことについてでございますが、この統合問題は協和中学校の校舎の老朽化と将来の生徒数の減少を考え、平成21年3月の組合立解消の時点で大台中学校と統合を図るべく、平成18年度から日進地域の住民の方々、小中学校及び保育所保護者の方々と懇談会を重ねご理解を願ってきたところでございますが、地域の協和中学校存続に対する思いが強く、平成21年4月の統合は、時間的に無理であると判断をいたしましたところでございます。

私としましては、生徒数が減少するなかで、できるだけ多くの生徒が同じ学舎のもとで学問やクラブ活動を通じ、お互いの将来について夢を語り合い、学力を付け、将来の生きる活力を養ってもらえるような教育環境を整えていくことが町長としての責務であると考えております。

2つ目に、義務教育である中学生は、私立の中学校に入学する以外には中学校を選ぶことはできませんので、私たち親は子どもたちにできる限りの教育環境を整えていく責務がございます。

3つ目に、小学生は地域の中で、中学生は町のレベルで、そして高校進学を希望する学生は県レベルで、大学は国レベルで仲間と一緒に学び、共に語り合い多くの人々とふれあい交流することにより、夢を広げ、また頭を打ち、自分の一生の道を切り開いて立派な大人に成長していくものと期待をしているところであります。

中学校がなくなりますと、町がさびれてしまうと危惧する町民の皆様の気持ちはよく理解できますが、町の活性化は地域の伝統的な祭りや歴史、文化を守り育て、また地域資源を生かしながら地域の皆さんが主体となって、町も含めともに話し合い進めることであり、中学校問題とは切り離して進めるべきことだと考えております。こうしたまちづくりができれば、若者がふるさとを大切に、また誇りに思う心も醸成されるものと考えております。

4つ目に、離島のような閉鎖的な地形ならともかく、バスで30分もあれば、多くの仲間と一緒に学べる環境が整備されている当町で、そうした教育環境を整えてあげられなかった生徒に、大切な3年

間の中学生時代を過ごす、夢多き若者に、誰が将来にわたって責任を負うのでしょうか。

私は、こうしたことを痛感しながら、子ビもたちの将来を考えた教育環境整備については、保護者や地域住民の皆さんのご理解が得られるものと確信し、今一度、話し合いを進めてまいります。地域の皆さんには近い時期にご決断をいただかなければならないものと考えておりますので、ご理解をお願いし答弁とさせていただきます。

なお、2点目以降については、教育長より答弁をさせますのでよろしく願いをいたします。

-----

議長（中西 康雄君）

教育長。

-----

教育長（谷口 忠夫君）

2点目の大紀町と大台町の統合に関して、彼我の差は何に起因するのかということについてのご質問にお答えをいたします。

協和中学校の問題については、長い歳月の経緯がございます。

昭和58年に大台町は一町一中学校の方針を出し、統合に向けて地域住民の理解を願ってきましたが、平成2年9月 老朽化の三瀬谷中学校と青陵中学校の川添地区の生徒の統合を段階的に行い、協和中学校については今後の課題として、当分の間存続という結論になり、平成6年4月三瀬谷中学校と青陵中学校が統合して大台中学校が開校されました。

その後、平成7年11月に大台町教育委員会が一町一中学校の基本方針に則り、平成9年度より大台町の日進地区の生徒は大台中学校へ通学する旨の教育方針を出しました。

また、平成7年12月大台町議会において「大台町の一町一中学校の基本方針に基づき中学校統合の早期実現についての意見書」が採択され統合へ向けての対応を進めてまいりましたが、平成8年10月に統合への準備期間等の不足から、平成9年4月の統合実施は見送ることとなり、存続のままの状態になっておりました。

平成18年、町村合併後の6月議会で一般質問に対し、町長は協和中学校の問題について耐震補強、改築、統合という3つの選択肢のうち統合が望ましいと答弁をいたしましたとおり、組合立解消後は

統合が望ましいということで、両町教育委員会連携のもと進めてまいりましたが、21年4月統合は難しい状況でございます。

また、大紀町につきましては、平成17年・18年の議会において、町内中学校の統合について一般質問があり、保護者からも少人数での学力の影響やクラブ活動への影響を踏まえ統合の取り組みについて意見がありました。

小学校についても大内山小学校、柏崎小学校の児童の減少により、平成20年度より複式学級の編成になっていくことから、地域の方が中心となりまして統合問題に取りかかり、小学校、中学校の統合まで発展した経緯がございます。これは地域住民の皆さんにご理解が得られたものと考えております。このことが大台町と大紀町の違いではないかと考えております。

次に3点目の統合と耐震工事の実施において、一貫した教育行政の展開とは考えられないとのことですが、平成18年10月校舎耐震診断調査を実施し、総合評点が0.24の診断結果となり、「倒壊または大破壊の危険があります。」と判定された以上、統合と切り離し現在在籍している生徒の日々学校生活での安心・安全の確保が第一との考えから大紀町と協議のうえ、工事を実施したものでございます。

耐震補強工事の経費としては、5,640万円ほど投資をいたしました。また施行中の現場の様子も見ましたが、基礎・柱等ずいぶん傷んでおりまして、土台との接合部が欠損している状況でもございました。

この耐震補強工事を実施したことにより、耐震に対しては文科省の基準に達しましたが、依然として老朽化と教育環境は変わっておりませんので、統合は何としても進めていかなければならないものと考えております。

次に、4点目の今後の統合に向けての打開策ということですが、平成18年度から話し合いを重ねてきて、日進地域の一部及び保護者、住民の一部の方からも統合はやむを得ないという意見もいただいておりますので、早期統合に向けて地域の方々にご理解を得るよう努力をしていきたいと考えておりますので、ご理解をお願いし答弁とさせていただきます。

-----

議長（中西 康雄君）

廣田議員。

-----

14 番（廣田 幸照君）

彼我の差はどこにあるのかという質問に対して、町民のほうの理解が得られたからと、こういうふうにお答えになりました。実は、大紀町にいろいろ聞いておりましたが、統合に向けての住民の話し合いの会を組織されたようでございます。それは町民のほうの自発的な話であったか、あるいは行政側、執行部側の働きかけであったか、私は調査の中で執行部側の働きかけであったというふうに、発端を理解しております。

この9月7日ですね、宮野集会所で開かれました町政懇談会でも協和中学の統合問題が住民からの質問にございました。反対の意見でございました。そして用意されたペーパーによって、またさきほど町長が答弁されたように、より良い教育環境を提供するという、より良い教育環境とはどういうものかという質問であったと、これはですね、さきほど町長が述べられましたけども、教育を取り巻く環境は随分変わっているわけですね。たくさんのものが要求されてきておるわけです。

そのときに教育長が、学校教育のその熱い思いを、夢を、私はこういう中学校、新しい中学校になったときに、こういうことになりたいんだという言葉でですね、住民に働きかける絶好の機会だと思ったんですね。ところが教育長はですね、ある程度の人数で教育することはお互いに切磋琢磨し、教育効果が上がるんだとか、現在ですね少人数であって、クラブ活動も停滞しているとか、そういうふうなことを掲げられまして、統合により教育予算が集中でき、質の向上が期待できると結ばれたんですね。

質問者は、その質を問うているわけです。その質を問うておるわけですね。さらにその中で、同じその宮野の会場で学力テストの結果も質問されました。教育長は、多気郡内の各学校のテスト結果は非公開ということで、学校間の比較はされたということでありましたが、この質問もですね、教育の質を問うているわけです。

そこでですね、私の1番目の質問でありますけれども、この統合した新大台中学校は生徒のためにこういうような教育を展開したいんだと、その中で生徒はこのように育て将来の新大台町を、そして地域を担っていき、日本の未来を支える人間になってほしいと、こういうふうなですね、教育に対する夢を語ってほしいと思うんです。旧宮川村から大台町の教育行政のトップとしてですね、リーダーシップを取り続けた教育長の熱い思いをこの6チャンネルを通じて、皆さん方にお伝えして、こういう中学校をつくりたいんだと、だからひとつよろしく協力していただきたいということをアピールをしていただきたいと思います。

統合の時期はいつかという質問に対しては、町長のほうから直接的なお答えはいただけませんでした。かつての旧大台町での町長、教育長の方針、あるいは議会の意見書等々の経緯も教育長から述べられましたですけども、その事態がですね、また繰り返されるのだったら、これは教育長の責任、あるいは町長の責任も十分問われかねないことになると思います。できるだけ時期を明白にしてほしいということ、表明をしていただきたいと思います。

それからですね、8月の12日の夜から8月13日にかけてですね、協和中学で投石事件がおきまして、体育館や資料室の窓ガラスが割られましたですね。3つの銘柄のたばこの吸殻が発見されたとか、あるいは缶ビールの空き缶が放置されていたとかということで、複数の若い人たちの行為と見られます。

8月18日、日進小学校でも落書きがあったようです。かかる行為はですね、学校を取り巻く環境が荒れてきているサインであろうと、私の学校に勤務していました長年の経験からそういうふうに申し上げるわけであります。統合に揺れ動く学校に在籍している生徒の精神的な動揺はですね、相当なものがあるかと考えているんです。

このように生徒を学校という場に乘せる場合にですね、統合問題で綱引きをしているような教育委員会の責任はですね、もう十分あるかと思うんです。この辺についてどのように考えているか、お考えを述べていただきたい。

-----

議長（中西 康雄君）

教育長。

-----

教育長（谷口 忠夫君）

統合を目指す新大台中学校につきまして、私の思いを述べよということでございます。現在、それぞれの中学校におきまして289名の生徒が学習指導要領のねらいに的確に対応しながら、学校、家庭、地域社会が一体となって子どもの教育に取り組んでいるところでございます。

最近の傾向として、少子化による生徒の減少が顕著になってきておりまして、大台中学におきましても本年度の入学新入生が開校以来、初めて40人を割り込みました。こうした傾向は今後も継続していくものというふうに考えております。

このような傾向の中で、学校教育を考えますとき、教育の最終目標は健康で豊かな人間性を備えて人間を育てることであると考えております。そのために小中学校教育においては、この目的を達成するために、すべての基礎、基本を会得する非常に重要な時期でもございます。このために心の教育の充実と確かな学力の向上を目指して、きめ細やかな指導を行い、基礎、基本や自ら学び、自ら考える力を身に付けさせ、確かな学力向上のための特色ある学校づくりを推進いたしております。

一方、心の教育の充実は、すなわち生きる力でございまして、それには美しいものや自然に感動する心、正義感や公正さを重んじる心、命を大切にし人権を尊重する心などの感性や社会性を育てることが、すなわち生きる力であり、心の教育であります。

私は、このような教育を大台町の教育として実施いたしております。今後もますます発展、充実をしていきたいと考えております。特に中学校教育におきましては、基礎、基本の定着はもちろんであります。生きる力など社会性の育成が重要でございます。こうしたさまざまな感性や社会性の育成には、生徒がより多くの人と接し、より多くの子どもたちの交わりの中で切磋琢磨しながら、育てることが有効であると考えております。

また、かつての大台町の各中学校では、クラブ活動など大変盛んでありました。球技から陸上競技、文化活動まで県内で幾多の好記録を残し活躍をしてみいました。しかしながら、近年においては生徒の減少に伴い、こうした活動も2、3の個人競技以外は低迷しているのが現状でございます。私は中学校教育の中では、1つの物事を仲間同志でなし遂げる達成感や連帯感、他人を思いやる心などの育成は大変重要であるとともに、こうした学校生活が生徒の自信と学習意欲の向上とともに、より豊かな人格形成につながる礎となるものと確信をいたしております。統合中学校では、こうした学校生活も再び取り戻したいと考えております。

現在の大台中学校は規模も3校中一番大きく、施設整備も比較的新しく、大台中学校を大台町の中学教育の拠点校と位置づけ、早期に統合を果たし、大台町の中学校教育を実施したいと考えているところでございます。

大台中と協和中との統合では、大規模な統合にはなりません。1学年複数クラスとしクラス替えなどにより、より多くの子どもたちと接することにより、集団の中で生徒自らが高め合うよう、教育効果の向上を図っていききたいと考えております。

大台町の中学生の進路は、近年において卒業生はほぼ全員が高校へ進学している状況であります。基礎、基本を極め、心の教育を醸成した卒業生が、高校教育、あるいは大学教育に進み、より一層の人間性を磨き、社会のリーダーとして、ある者は大台町の将来の担い手として、またあるものは日本の将来を支える人物として活躍していただくことは、町民の熱望するところであり、大台町の誇りで



あり、期待をして止みません。

最後に、町民が統合中学校に入学し、統一校を卒業することは、町民としての一体感を向上させ、大台町の発展に将来にわたって必ずや寄与するものと期待するところでございます。以上、私の統合中学校に対する思いでありますので、ご理解をいただき、答弁とさせていただきます。

-----

議長（中西 康雄君）

廣田議員。

-----

14 番（廣田 幸照君）

なかなか夢のある、そして実のあるご答弁でございました。少子化というのはなかなか解決する問題ではありませんですね。

-----

議長（中西 康雄君）

教育長。

-----

教育長（谷口 忠夫君）

それから、私の責任ということでございます。平成 18 年から進めてまいりました協和中学校の統合問題は、さきほど答弁させていただきましたとおり、誠に残念ですが、平成 21 年 4 月の統合は先送りをせざるを得なくなりました。

教育委員会としましては、これまでの 2 年間の取り組みをさらに進め、早期統合を目指し、保護者や地域の皆様のご理解を得る努力をしていきたいと考えております。過去に大台町ではこの統合を決定していながら見送った経緯がございます。私は当時のことはよくわかりませんが、保護者や地域

住民の皆さんとの意見交換が徹底できなかったためではないかと推察するところでございます。

新大台町でもかかる事態になった場合の、私の責任はということでございますけども、責任は当然感じておりますが、今私に与えられた責務はいかにして、この統合問題を1日でも早く解決し、子どもたちが同じ中学校で学ぶことができるかであると考えております。今一度早期統合を目指して努力をしていきたいと思っておりますので、ご理解をお願いし、答弁とさせていただきます。

-----

議長（中西 康雄君）

尾上町長。

-----

町長（尾上 武義君）

ついでに私の責任ということもございましたんで、お答えいたしたいと思っておりますが、統合後、この話を出させていただきました。本当に子どもたちの将来を考えたときに、より多くのところでいろんなことを話し合い、成長していくということは非常に大事なことです。そのパイが大きければ大きいほど、もういいのはわかっておるんです。

そういうようなことの実現に向けてですね、廣田議員 22年か 23年なんかというふうなお話でございまして、私もより早くやりたいなと、こう思っております。ただ、教育委員会の中での決定をいただかならんと、こういうようなことでもございまして、そこら辺はしっかりと教育委員会の中の議論をですね、教育長にリードしていただきたいというご指示はさせていただいているところでございます。そういう中で、早期の統合実現に向けて、最善の努力を重ねてまいりたいとこう思いますんで、ご理解いただきたいと思います。

-----

議長（中西 康雄君）

廣田議員。

-----

14番（廣田 幸照君）

教育長の答弁なかなか夢もありですね、熱意もあるご答弁でございました。これからの人口はですね、人口増はなかなか望めないわけであります。統計によりますと大台町、大紀町の人口はですね、2015年に全人口の80%、90%に減少すると、また2030年には60%か70%になると推定されておりますね。現に18年度と19年の産子数は73でしたか74でしたかね、そういう本当に少ない人数であります。

その中で、教育効果をいかに上げていくか、やはりいろんな形で町民に語りかけて、夢を語りかけて、そしてその夢の裏打ちできるですね、教育行政をきちっとやっていく、例えば栄養職員なんかの配置はもうすでにされています。司書教諭も配置をしなければいけない。あるいはスクールカウンセラーも、あるいは語学のCISか、あるいはALTか、そういうのも配置をしなければいけないと、こういう実情がございます。金がいくらあっても足りない、金を注ぎ込んでいい教育ができるとは思いませんけども、その中で教育行政のリーダーをとる教育長が、熱い思いを語っていただければ、それに対して先生方も呼応してやっていただけると、こういうふうに確信するものであります。

以上、もう答弁は要りません。

-----

議長（中西 康雄君）

これで本日の一般質問を終わります。

-----

散会の宣言

-----

議長（中西 康雄君）

以上で、本日の日程は全部終了しました。

本日はこれで散会します。

次回は9月17日、水曜日、午前9時より再開をいたします。

皆さんご苦労さんでございました。

(午後 5時 05分)